

平成22年度
(第45期)

事業報告書

自 平成22年 1月 1日

至 平成22年12月31日

財団法人 国立京都国際会館

平成22年度（第45期）

事業報告書

目次

- I. 平成22年度の事業について・・・P. 2-7
- II. 会場の使用状況・・・・・・・・・・P. 8-11
- III. 自主企画事業について・・・・・・・・P. 12
- IV. 理事会及び役員事項・・・・・・・・P. 13-14
- V. 評議員及び評議員事項・・・・・・・・P. 15-16
- VI. 庶務事項・・・・・・・・・・P. 17-18

I. 平成22年度の事業について

1. 総論

平成22年度において、特筆すべき点は以下のとおりです。

先ず1月、川勝堅二前理事長の後任として稲盛和夫京セラ名誉会長が第四代理事長に就任しました。また、4月には国立京都国際会館の理念、運営方針および職員心得を制定し公表しました。

次に、平成22年度は大型国際会議が例年に比し数多く開催され、これが大幅な収入増につながりました。

機構面においては、当会館の活動を外部にアピールするため、平成22年度4月より広報企画室を設け外部の専門家を配置しました。9月にはオピニオンリーダーを招いての自主企画シンポジウムを開催しました。

また、職員の質的向上を図るため、海外のセミナー参加や諸外国の国際会議場の視察を積極的に実施しました。他方、外国人研修生を平成21年度に引き続き1名受け入れました。

当会館としましては、国のMICE（Meeting, Incentive, Convention, Event/Exhibition）戦略と軌を一にし、職員のレベルアップを図り、さらなる事業の発展のため尽力しています。

次に、会館の施設については、地下鉄出口からイベントホールに至る間の屋根付き歩廊の整備や正面玄関の車寄せの補修などを行い、参加者の利便性の向上を図りました。また、正面玄関内側に京都府・京都市等の協力により、「地球環境の殿堂」が設置されました。

他方、経営面において、顧客への利便を図るため、会議用備品、電気機器の使用料を改定し、茶室使用料を大幅に引き下げました。また、預金の一部を債券の購入に充て、財務基盤の安定化を図りました。

2. 会議の概要

平成22年度に当会館で開催されました国際会議は、第17回APEC財務大臣会合を含め52件、同じく国内会議等は193件で、合計245件となっています。これは平成21年度に比べますと、国際会議で9件の増加、国内会議等では19件の減少となっています。

一方、年間の利用者数は、国際・国内合わせて約260,000人で、平成21年度に比べ、約6,500人の減少となっています。

平成22年度の主な国際会議および国内会議等は以下のとおりです。

(1) 主な国際会議（参加人数1,000名以上） （6頁の注参照）

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	社団法人日本青年会議所2010年度京都会議	1. 21～1. 24	12, 100
2	KYOTO地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2. 13～2. 14	1, 000
3	第74回日本循環器学会総会・学術集会	3. 4～3. 7	17, 877

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
4	第1回アジア慢性期医療学会	3.13～3.14	1,500
5	第14回国際内分泌学会議	3.26～3.30	3,380
6	第84回日本感染症学会総会・学術講演会	4.5～4.6	2,100
7	第50回日本呼吸器学会学術講演会	4.23～4.25	5,743
8	第20回国際心臓研究学会世界大会	5.13～5.16	1,213
9	国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン第24回リジョン大会及び2009年度分科会	5.18～5.19	2,500
10	第1回世界加速器会議	5.23～5.28	1,300
11	社団法人日本超音波医学会 第83回学術集会	5.29～5.31	3,300
12	第10回日本抗加齢医学会総会	6.11～6.13	2,500
13	日本臨床歯周病学会 第28回年次大会	6.26～6.27	1,500
14	日本ペインクリニック学会 第44回大会	7.1～7.3	3,118
15	2010年合成金属の科学と技術に関する国際会議	7.4～7.9	1,200
16	第10回国際中皮腫会議学術集会	8.31～9.3	1,000
17	世界分子イメージング会議2010	9.8～9.11	1,900
18	Scoliosis Research Society 45th Annual Meeting and Course	9.20～9.24	1,000
19	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (STSフォーラム) 第7回年次総会	10.3～10.5	1,000
20	第25回日本整形外科学会基礎学術集会	10.14～10.15	2,000
21	第24回日本Endourology・ESWL学会総会	10.21～10.23	1,456
22	第48回日本癌治療学会学術集会	10.28～10.30	8,200
23	第17回APEC財務大臣会合	11.4～11.6	1,100
24	第26回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11.10～11.12	5,100
25	世界健康フォーラム2010・京都「世界の健康は食文化から」	11.25～11.25	2,005
26	第31回日本臨床病理学会年会および第17回臨床薬理学講習会	12.1～12.4	2,200
27	ATAC 2010 (電子情報支援技術とコミュニケーション支援技術に関するカンファレンス)	12.10～12.12	1,000

(2) 主な国内会議等（参加人数1,000名以上および自主企画等）

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	第13回日本病態栄養学会年次学術集会	1.9～1.10	3,600
2	第31回日本病院薬剤師会近畿学術大会	1.30～1.31	3,300
3	第48回関西財界セミナー	2.4～2.5	450
4	第26回京都府消防大会	2.7	2,000
5	ネオロマンス・フェスタ - 遙か十年祭 - in 京都	2.5～2.7	8,000
6	第40回中小企業問題全国研究集会	2.11～2.12	1,500
7	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2.12～2.13	1,200
8	茶道裏千家淡交会青年部第15回全国大会	3.20～3.21	3,000
9	京都精華大学2010年度入学式	4.1	2,300
10	国際ロータリー第2650地区2009～2010年度地区大会	4.4	3,572
11	春の音楽会（自主企画）	4.11	600
12	第49回春の宝松庵茶会（自主企画）	4.29	558
13	第22回日本アレルギー学会春季臨床学会	5.8～5.9	3,300
14	科学・技術フェスタ in 京都 平成22年度産学官連携推進会議	6.5	5,000
15	平成22年度京都府PTA指導者中央研修会	6.11～6.13	1,500
16	平成22年度近畿老人福祉施設研究協議会京都会議	7.22	1,500
17	日韓 乾杯の夕べ（自主企画）	7.25～7.26	3,400
18	平成22年度 子どもを共に育む未来づくり教育フォーラムin京都	7.28	2,500
19	平井堅 コンサート	8.2	2,300
20	2010年度 全国公文進度上位者のつどい in 京都	8.29	3,000
21	船橋洋一氏他シンポジウム「東アジアにおける民族の共生」 （自主企画）	9.7	450

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
22	第24回日本手術看護学会年次大会	9.17～9.18	1,800
23	フォーラム挑戦する私学 - 期待されるこれからの私学教育 -	9.19	2,000
24	日本女性会議2010きょうと	10.2	3,000
25	第50回全国国保地域医療学会	10.8～10.9	1,500
26	平成22年度京都府戦没者追悼式	10.25	2,000
27	古典の日推進フォーラム2010	11.1	1,500
28	第50回秋の宝松庵茶会（自主企画）	11.23	638
29	キャリア フォーラム 京都会場	11.27	5,000
30	第38回内科学の展望	12.5	1,500
31	第13回京都市PTAフェスティバル	12.11	20,000

3. 収支状況

平成22年度の収支については、開催期間の長い大型会議の増加に伴い、使用料収入は過去最高の16億68百万円、これにその他の収入52百万円を加えると、総収入は17億20百万円（資産取得資金取崩益約21百万円を含む）となり、平成21年度（14億53百万円）に比べ、大幅な増加となりました。

一方、支出の部では、委託費が若干減少したものの、人件費、運営費、管理費が稼働率の上昇に伴って増大したことと、近く実施見込みの大規模な耐震改修工事に伴う収入減に備えて、新たに損失補填引当金を設けたことにより、最終剰余金は27万円となりました。

4. 管理運営・施設整備等

(1) 新公益法人への移行について

新公益法人制度に対応するため、3月に寄附行為を変更して評議員の定数を減じ、さらに5月には最初の理事・監事および最初の評議員を選任し、平成22年7月2日に、国に対し公益財団法人への移行認定申請を行いました。

(2) 営業活動について

3月の第74回日本循環器学会総会・学術集会および10月の第48回日本癌治療学術集会において駐車場スペースに展示場として大型テント（5,100㎡および2,100㎡）を臨時に設置し、主催者の要望に応えました。

また、国のMICE戦略の一環として職員を海外のセミナーに参加させました。

(3) 施設整備について

[国の事業]

平成22年度（国の事業年度）分として、下記の項目が実施されています。

- ① 外壁の改修
- ② 会議場耐震壁の設置
- ③ 中水システム補修工事
- ④ ルームA会議場絨毯の更新
- ⑤ イベントホール・ロールブラインドの更新
- ⑥ 調光設備などの補修工事

[会館の事業]

平成22年度（会館の事業年度：暦年）に下記の項目を実施しました。

- ① イベントホール歩廊・正面玄関外部床部分などの整備工事
- ② 議席椅子（380脚）の購入
- ③ 大型ビデオプロジェクター（2台）の購入
- ④ 館内PHSシステムの更新
- ⑤ 金属探知ゲート（3台）の購入
- ⑥ コンベンションシステムの改良

注：JNTO（国際観光振興機構）国際会議統計基準

以下の1～4の条件をすべて満たす会議を「国際会議」と定義します。

- 1 主催者 : 国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は、国家機関・国内団体
（各々の定義が明確ではないため民間企業以外は全て）
- 2 参加者総数 : 50名以上
- 3 参加国数 : 日本を含む3カ国以上
- 4 開催日数 : 1日以上

5. 平成23年度に予定されている主な国際会議（参考資料）

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	公益社団法人日本青年会議所2011年度京都会議	1.20～1.23	12,100
2	第34回日本眼科手術学会総会	1.26～1.30	4,000
3	京都環境文化学術フォーラム	2.11～2.13	1,000
4	KYOTO地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2.12～2.13	1,000
5	第7回日本消化管学会総会学術集会	2.18～2.19	2,000
6	15th ILO Asia-Pacific Regional Meeting	4.10～4.13	700
7	環太平洋法曹協会2011年第21回年次 京都／大阪 大会	4.21～4.24	1,400
8	第112回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	5.19～5.21	4,000
9	2011国際分析科学会議	5.22～5.26	1,000
10	第11回日本抗加齢医学会総会	5.27～5.29	2,000
11	第32回日本炎症・再生医学会	6.2～6.3	1,000
12	2011年国際電気通信会議	6.5～6.9	1,200
13	第16回国際RNA Society国際会議・第13回日本RNA学会年会	6.14～6.18	1,500
14	日本家族看護学会第18回学術集会	6.25～6.26	3,000
15	第10回国際家族看護学会	6.25～6.27	1,000
16	第23回国際血栓止血学会	7.23～7.28	6,000
17	第15回国際分子植物微生物相互作用学会	8.2～8.6	1,000
18	第2回プロセス化学国際シンポジウム	8.11～8.12	1,000
19	第9回Pangborn感覚科学シンポジウム	9.4～9.9	850
20	第84回日本生化学大会	9.21～9.24	6,000
21	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第8回年次総会	10.2～10.4	800
22	日本睡眠学会第36回定期学術集会／World Sleep 2011	10.15～10.20	2,500
23	第27回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11.10～11.12	3,350
24	第3回世界信頼性保証会議	11.13～11.16	1,100
25	第29回国際泌尿器内視鏡外科学会	11.30～12.3	3,000

Ⅱ. 会場の使用状況

1. 国際会議の実績

区 分	平成22年度	平成21年度	前 年 比
開 催 件 数	52 件	43 件	9 件
参 加 人 員	95,477 人	24,770 人	70,707 人
使 用 料 収 入	1,037,489 千円	337,264 千円	700,225 千円
1 件あたり参加人員	1,836 人	576 人	1,260 人
1 件あたり使用料収入	19,952 千円	7,843 千円	12,109 千円

2. 国内会議の実績

区 分	平成22年度	平成21年度	前 年 比
開 催 件 数	193 件	212 件	△ 19 件
参 加 人 員	164,367 人	241,600 人	△ 77,233 人
使 用 料 収 入	534,574 千円	984,944 千円	△ 450,370 千円
1 件あたり参加人員	852 人	1,140 人	△ 288 人
1 件あたり使用料収入	2,770 千円	4,646 千円	△ 1,876 千円

注：平成22年度は、平成21年度に比べ国際会議が大きく増加し、逆に国内会議が大きく減少しているがこれは、平成22年度より、国際会議・国内会議の分類について、JNTO基準を採用することとしたため、従前は国内会議に分類されていた大型国内会議が、国際会議に分類されるようになったことが大きな要因である。

3. 会議等の内容からみた開催件数

区 分	国際会議	国内会議等	計	前 年 度
政治・経済・法律	2 件	10 件	12 件	10 件
科 学 ・ 技 術	11	1	12	21
医 学	23	35	58	57
産 業	4	20	24	43
芸術・文化・教育	4	37	41	43
社 会	3	6	9	11
運 輸 ・ 観 光	0	4	4	1
社 交 ・ 親 善	0	13	13	19
宗 教	1	5	6	4
ス ポ ー ツ	0	1	1	3
そ の 他	4	61	65	43
計	52	193	245	255

4. 月別にみた開催件数及び開催日数

月 別	開 催 件 数			開 催 日 数		
	国 際 会 議	国 内 会 議 等	計	国 際 会 議	国 内 会 議 等	計
22年 1 月	2 件	15 件	17 件	8 日	23 日	31 日
2 月	2	18	20	5	29	34
3 月	4	9	13	13	11	24
4 月	4	19	23	12	20	32
5 月	4	12	16	15	13	28
6 月	5	18	23	15	23	38
7 月	4	17	21	14	22	36
8 月	2	12	14	6	14	20
9 月	6	15	21	21	21	42
10 月	5	13	18	16	17	33
11 月	9	28	37	19	33	52
12 月	5	17	22	18	20	38
計	52	193	245	162	246	408
前年度	43	212	255	127	304	431

5. 主な会場の稼働日数

会場名	平成22年度	平成21年度
大会議場	178 日	171 日
会議場 A	194 日	165 日
会議場 B - 1	162 日	176 日
会議場 B - 2	143 日	157 日
会議場 C - 1	130 日	181 日
会議場 C - 2	149 日	171 日
会議場 D	187 日	170 日
イベントホール	155 日	129 日
アネックスホール	198 日	194 日
合計	1,496 日	1,514 日

会場	平成22年度		平成21年度	
	稼働日数	稼働率	稼働日数	稼働率
大会議場	178 日	50.4%	171 日	48.0%
会議場 A	194 日	55.0%	165 日	46.3%
イベントホール	155 日	43.9%	129 日	38.3%
アネックスホール	198 日	56.1%	194 日	54.5%
4会場平均稼働率		51.4%		46.8%

* 稼働率:稼働日数÷(365日-休館日・工事日)

6. 開催件数における国際・国内会議の比率

年度	国際会議		国内会議		合計 件数
	件数	比率	件数	比率	
平成21年度	43 件	(16.9%)	212 件	(83.1%)	255 件
平成22年度	51 件	(20.9%)	193 件	(79.1%)	244 件

* 国際会議の比率が20%を超えたのは開館以来初めてであり、これはJNTO基準に準じ、国内大型会議も国際会議の対象となったことも一因である。

Ⅲ. 自主企画事業について

1. 宝松庵茶会

恒例の市民参加によるお茶会を、春と秋、茶室「宝松庵」にて、裏千家今日庵をはじめ、関係各位のご協力のもと開催しました。

春の茶会 平成22年 4月29日（木）

秋の茶会 平成22年11月23日（火）

2. 乾杯の夕べ

恒例となりました「乾杯の夕べ」を、韓国をテーマとして平成22年7月25日（日）と26日（月）の両日に開催しました。

3. 自主企画シンポジウム

平成22年9月7日に、ジャーナリストの船橋洋一氏他を迎えて、自主企画シンポジウム「東アジアにおける民族の共生」を開催しました。

IV. 理事会及び役員事項

1. 理事会

会議の区分	開催の日時場所	会議の目的事項
第90回 理事会	平成22年3月18日 午前11時～12時 会館C-1会議室	<p>第1号議案 寄附行為改正の件 改正箇所 (第31条1項) 評議員の定数「35名以上45名以内」を「20名以上25名以内」 本件は原案のとおり可決されました。</p> <p>第2号議案 評議員選任の件 明石康、麻生純、阿南・ヴァージニア・史代、池坊由紀 井村裕夫、内海善雄、大倉治彦、小倉和夫、柏原康夫 茅陽一、木下博夫、グレン・S・フクシマ、小村武、齊藤修 齊藤行巨、坂本吉弘、千宗員、千容子、手嶋龍一、 寺島実郎、中尾一和、服部重彦、星川茂一、間宮忠敏 吉村彰彦 以上25名の評議員選任が可決されました。</p> <p>第3号議案 平成21年度事業報告書、収支計算書、正味財産 増減計算書、貸借対照表、当期収支差額処分計算書、 剰余金計算書（案）及び財産目録認定の件 本件は原案のとおり可決されました。</p>
第91回 理事会	平成22年12月6日 午前15時00分 ～16時40分 会館B-1会議室	<p>議案 平成23年度事業計画案・収支予算案の件 本件は原案のとおり可決されました。</p>

2. 役員氏名

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	稲盛和夫	理事	大槻泰
副理事長	村田純一	理事	佐藤茂雄
常任理事	天江喜七郎	理事	下妻博
常任理事	門川大作	理事	千玄室
常任理事	立石義雄	理事	千宗左
常任理事	山田啓二	理事	増田正蔵
理事	石田隆一	理事	松本紘
理事	石橋三洋	監事	森川敏雄

理事長1名 副理事長1名 常任理事4名 理事9名 監事1名 計16名 (平成22年12月末日現在)

3. 顧問及び参与

役職名	氏名	役職名	氏名
顧問	荒 卷 禎 一	参与	井 上 伸
顧問	中 村 順 一	参与	伊 吹 邦 彦
顧問	梶 本 頼 兼	参与	森 脇 史 郎
		参与	山 中 英 治

顧問3名 参与4名 計7名

(平成22年12月末日現在)

V. 評議員及び評議員事項

1. 評議員会

会議の区分	開催の日時場所	会議の目的事項
第17回 評議員会	平成22年3月12日 午前11時～ 12時45分 会館B-1会議室	第1号議案 寄附行為改正の件 改正箇所 (第31条1項) 評議員の定数「35名以上45名以内」を「20名以上25名以内」 本件は原案のとおり可決されました。 第2号議案 平成21年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、当期収支差額処分計算書、剰余金計算書(案)及び財産目録認定の件 本件は原案のとおり可決されました。
第18回 評議員会	平成22年12月6日 午前15時～ 16時40分 会館B-1会議室	議案 平成23年度事業計画案・収支予算案の件 本件は原案のとおり可決されました。

2. 評議員の異動

評議員氏名	異動年月日
評議員 麻生 純	平成22年12月6日辞任

3. 評議員氏名

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員	明石 康	評議員	齊藤 修
評議員	阿南・ウァーシニア・史代	評議員	齊藤 行巨
評議員	池坊 由紀	評議員	坂本 吉弘
評議員	井村 裕夫	評議員	千宗 員子
評議員	内海 善雄	評議員	千容 龍一
評議員	大倉 治彦	評議員	手嶋 龍実
評議員	小倉 和夫	評議員	寺島 一和
評議員	柏原 康夫	評議員	中尾 一彦
評議員	茅 陽一	評議員	服部 重彦
評議員	木下 博夫	評議員	星川 茂一
評議員	グレン・S・フクシマ	評議員	間宮 忠敏
評議員	小村 武	評議員	吉村 彰彦

評議員計24名

(平成22年12月末日現在)

VI. 庶務事項

1. 施設の管理再委託契約

当財団法人と京都市が締結している施設の管理再委託契約の内容は次のとおりです。

(注：国と京都市との間で国有財産管理委託契約を締結)

区 分	種 目	名 称	数 量	価 格
土 地	宅 地		156,096.77 m ²	5,428,982,551 円
立 木 竹	樹 木		798 本	26,235,794
建 物	事務所建	会 議 場	14,693.54 m ² 37,786.48	2,885,687,453
	事務所建	展 示 場	4,860.69 7,976.58	596,311,736
	雑屋建	車 寄	126.11 126.11	9,813,200
	雑屋建	ポンプ室	189.93 189.93	16,658,006
	雑屋建	渡廊下 (連絡歩廊)	449.76 449.76	60,061,412
	雑屋建	渡廊下 (連絡歩道橋)	188.24 188.24	68,125,239
	雑屋建	渡廊下 (既設地下鉄出入口上屋)	9.33 9.33	5,421,937
	車庫建	ごみ容器置場	16.43 16.43	511,484
		計		20,534.03 46,742.86
工 作 物			一 式	7,200,513,689
合 計				16,298,322,501

2. 会議準備資金融資制度

会議準備資金融資制度は、長期にわたり申請がなかったため、平成22年3月31日をもって終了しました。

3. 休館日

本年度中に次の日を休館しました。

平成22年 1月 1日 (金) ~ 4日 (月)	4日間	年始休館
平成22年12月28日 (火) ~31日 (金)	4日間	年末休館

4. 事務局に在職する職員は次のとおりです。

区 分	男	女	合 計	前年度
館長 (常任理事)	1	0	1	1
事務局長 (理事)	1	0	1	1
事務副局長	1	0	1	1
総務部	7	2	9	9
施設部	12	0	12	13
営業部	6	10	16	17
調査役	1	0	1	1
業務支援専門員	3	0	3	1
広報企画室	1	0	1	0
合 計	33	12	45	44

(平成22年12月末日現在)